第21回年次大会予稿

ウィキペディア教育の経験

Teaching How to Edit Wikipedia

時実象一¹

Soichi TOKIZANE¹

1 愛知大学

Aichi University

〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1

E-mail: tokizane@aichi-u.ac.jp

図書館情報学志望の学生を対象にウィキペディアの作成実習を行なった。5-6名のグループで作成したい記事を選定し、ウィキペディアのアカウントを取得して記事を作成した。2007年以降、25記事（うち2記事は既存記事の補足）作成した。そのうち4記事は削除され、追加記事のうち2記事は編集を取り消されたが、残りは今も生きている。実習を受講した学生にアンケートを実施したところ、「自分でも編集できると知って驚いた」「簡単に編集できるので驚いた」との感想が合計半数を超えていた。教員に対するウィキペディアの利用についてのアンケート結果についても述べた。

English abstract: In the Library and Information Science class, the Author have students write and edit Wikipedia articles. Groups of 5-6 students each chose an article topic, and created a Wikipedia article with a pre-registered account. Since 2007, 25 articles were created including two edits of existing articles. Among them, four new articles were later removed, and two edits were deleted, but the rest are still alive. A survey of students revealed that many were surprised how easy to edit Wikipedia articles. A survey of teachers about the use of Wikipedia was described, too.

キーワード: ウィキペディア, 百科事典, 編集, 図書館情報学, 実習, 参考文献

Wikipedia, encyclopedia, editing, library and information science, practice, references

1 背景

1.1 ウィキペディアの概要

ウィキペディアはよく知られているように、参加型の百科事典である。誰でも新しい記事を書いたり、他人が書いた記事を編集できる。

その概要については渡辺の記事 [1] が参考になる。その仕組みや編集の仕方については、ウィキペディアの管理者のひとりである吉沢の著書 [2] が詳しい。また同じく管理者の日下は、その編集の実態や内容の信頼性について論じている [3, 4]。また山本ら [5] やアスリーヌら [6] はウィキペディアの与える社会的影響について論じている。中でも中村の一連の記事 [7-10] は、ウィキペディアの記事を実証的に追跡したものとして一読の価値がある。

前述のようにウィキペディアは多数の参加者の自治にまかされているが、そこでは「五本の柱」(表1)、「三大執筆方針」(表2)というガイドラインがある。

表 1 ウィキペディアの五本の柱

- ウィキペディアは百科事典です
- ウィキペディアは中立的な観点に基づきます
- ウィキペディアの利用はフリーで、誰でも編集が可能です
- ウィキペディアには行動規範があります
- ウィキペディアには確固としたルールはありません

なお、記事のスタイルや言葉使いについては、多くの編集者の合意によって決められたさまざまなルールがある。

表 2 ウィキペディアの三大執筆方針

- 中立的な観点
- 検証可能性
- 独自研究は載せない

1.2 先行研究

ウィキペディアについての最近の論文の多くは、これを大規模データベース、あるいは言語コーパスとみなして解析したり、オントロジー的に利用するといった研究であり、一般利用者の利用や執筆についての報告はほとんどない。長塚ら [11] は学生に対するアンケートを通じて、学生がどのようにウィキペディアを理解しているかを報告している。また執筆サイドでは、土木学会応用力学委員会のウィキペディアプロジェクトが、ウィキペディアを専門分野の一般社会での正しい理解を促進するための試みとして注目される [12]。

2 ウィキペディア実習教育

2.1 概要

現在ウィキペディアはネット社会で欠かすことのできない情報源となっている。しかし、学生によるコピペなど、安易な使い方が問題となっていることも事実である。筆者は、学生がウィキペディアに対して正しい理解を持つことができるように、その教育に取り組んできた。そのひとつとして、2007 年から行ってきた、学生によるウィキペディア編集の実習教育について報告する。

愛知大学文学部の図書館情報学専攻は、わが国では数少ない、図書館情報学を主題として掲げる学科である。専攻への配属は二年生からで、一年生は希望する専攻について理解を得るための入門講義・入門演習を

表 3 ウィキペディアの実習テーマ

年	記事名	新規追加	作成日	編集人数	最新編集日	備考
2007	カルミア（豊橋駅ビル）	新規	2007/12/2	35	2012/10/15	
	愛知県立新城東高等学校	追加	2007/11/21			
	名古屋市立当知小学校	新規				削除
2008	東刈谷小学校	新規				削除
	愛知県立美和高等学校	追加				取消
	ユナイテッド・シネマ豊橋18	新規				削除
2009	豊橋祇園祭	新規	2009/11/25	13	2013/1/27	
	愛知大学（刊行物）	追加	2009/11/22			
	多治見市立平和中学校	新規	2009/11/25	9	2013/4/4	
	愛知大学（サークル）	追加	2009/11/25			取消
2010	炭火焼レストランわやか杯	新規				削除
	岡崎市立矢作南小学校	新規	2010/12/1	7	2013/3/23	
	梅田川（愛知県）	新規	2010/12/1	3	2011/10/8	
	チョコレートサイダー	新規	2010/12/1	4	2010/12/26	
	豊橋点字図書館	新規				
2011	岡崎市立新香山中学校	新規	2011/11/2	5	2013/3/20	
	あさりせんべい（田原）	新規	2011/10/26	11	2013/2/1	
	高師緑地	新規	2011/11/9	4	2012/8/26	
	知立まつり	新規	2011/11/2	8	2012/4/7	
	おいでん祭（中津川市）	新規	2011/10/26	3	2011/11/9	
2012	霞山文庫	新規	2012/10/26	5	2012/10/31	
	音楽図書館	新規	2012/10/24	4	2012/11/23	コメント*
	愛知大学記念館	新規	2012/10/24	2	2012/12/11	
	多治見陶器祭り	新規	2012/10/24	6	2013/1/2	
	名護夏祭り	新規	2012/10/24	2	2013/3/3	

* ほとんどまたは完全に一つの出典に頼っています。（2012 年 11 月）一次情報源または主題と関係の深い情報源のみに頼って書かれています。（2012 年 11 月）

受講することとなっている。筆者はこの「入門演習」を担当しており、そこでは新聞記事の調査、データベース作成など、主として情

写真 1 NHK の実習授業取材風景

報コンテンツ系の実習をおこなっている。

「入門演習」の実習テーマのひとつとしてウィキペディアの記事を作成・編集することを始めたのは 2007 年で、現在まで継続しておこなっている。そこで作成・編集した記事は表3のとおりである。

この取組みは外部でも注目され、2009 年 11 月 25 日の NHK「ニュースウォッチ9」で取材・放映された（写真1）。

2.2 実習の進め方

2.2.1 記事の選定

学生は数名でグループとなり、各グルー

プで作成したい記事を選定した。選択したテーマは、自分はよく知っているが、まだ記事となっていないもの、たとえば、地域の施設や行事、出身学校、図書館情報に関するテーマ、などを推奨した。トラブルになりやすいテーマ、たとえば、タレント、アニメ、時事問題などに関するものは避けることとした。

その結果、一部削除された記事もあるが、ほとんどが現在も生きている。

2.2.2 記事の準備

まず Word などの記事原稿を作成し、教員がチェックした。ウィキペディアは著作権の侵害防止には極めて厳格であるため、既存サイトからの文章のコピペは禁止した。またそのジャンルのテンプレート（たとえば「高等学校」）があれば、それを利用し、類似の記事があれば、そのスタイルになった。

2.2.3 記事の作成

ウィキペディアはユーザ登録しなくても執筆・編集が可能である。この実習を開始した当初は、非登録ユーザとして編集をおこなったが、後述のようなトラブルが発生したため、その後は必ずアカウントを登録してから編集することとした。

記事に写真を入れる場合は、一旦ウィキメディアに登録する必要があるため、教員がアップロードした。

作成して一週間程度経て削除されない場合は、ほとんどの場合その後も安定して掲載されている。

2.3 問題点

2.3.1 IP アドレスブロック

2007/2008 年には、アカウントを取得しないで、直接編集をおこなった。その場合は、編集履歴に大学の IP アドレスが残る。編集が特定の日に集中したため、「荒らし」とみなされ、作成した記事が削除された上、大学の IP アドレスがブロックされた（2008年12月）。これについては担当管理者に事情を説明し、ブロックを解除してもらった。

2.3.2 未熟な記述

当初は教員も慣れておらず、指導も不十分だったので、学生が、検証が困難な、あるいは事典にふさわしくない記述をおこなうようなことがあった。たとえば、ある高等学校の記事において、

「3年に一度くらい、近隣の高校の生徒により、xx 高校の生徒を対象とした「xx 狩り」と称される暴力行為が行われる。」

との記述をした例があった。これは教員が気づいて削除した。

2.2.3 記事の削除

ウィキペディアにおける記事の削除方針では、(1) 法的問題がある場合（著作権またはプライバシー）、(2) ページ名に問題がある場合、(3) 百科事典的でない記事、(4) 投稿者本人から依頼がある場合、などかあげられている [13]。作成した記事のうち、「名古屋市立当知小学校」、「東刈谷小学校」、「ユナイテッド・シネマ豊橋18」、「炭火焼レストランさわやか杯」はその後削除されている。

ウィキペディアでは、記事内の記述の編集や削除は履歴で確認できるが、記事そのものが削除された場合は、追跡が困難であり、削除の理由は明らかでない。おそらくは、

(1) 記事が短すぎて内容がない, (2) 該当施設または行事がマイナーで事典に掲載する価値がない, というような判断ではなかつたかと推測している.

3 教育の効果

3.1 アンケート調査

実習をおこなった学生に, アンケート調査を実施した. 結果は図 1-6 のとおりである.

自由記入項目において, 役に立った記事としては, 「ドラマの登場人物」, 「タレントに情報」, 「ゲームの攻略」など, 趣味系

の記事が目立った. また品質が気になった記事としては, 「歴史上の人物」, 「芸能人」, 「時事問題」などが挙げられていた.

4 ウィキペディアからの引用

4.1 コピペ

ウィキペディアからのコピペはこれまでもしばしば問題となっている (Middlebury 大学事件 [14], 国際建設技術協会事件 [15], 議員海外視察事件 [16]). 大学現場でもウィキペディアを含むネットからのコピペは問題となっている. 当大学の教員にアンケー

図 1 ウィキペディアの使用頻度

図 2 ウィキペディアの使用目的

図 3 ウィキペディアの有用性

図 4 ウィキペディアの信頼性

図 5 ウィキペディアの有用性

図 6 ウィキペディアの信頼性

トをとったところ、表 1 のような事例があった (2008 年 7 月). 最近は深刻な事例は耳にしていないが、文章単位のマイナーなコピペは相当数に登ると思われる.

4.2 引用

一方でウィキペディアの記事を参考文献として引用することについては賛否がある. 前述の当大学のアンケートでも、A. ウィキ

ペディアには有用な情報が多いので引用して差し支えない (2 名) B. ウィキペディアからの引用は好ましくない (11 名) C. わからない (2 名), と反対が多いものの賛成した教員もいた.

「大学レポート・論文の書き方」氏は、(1) 情報の信頼性が低い, (2) Wikipediaは三次資料である, (3) 記事の正確性・厳密性, をあげて参考文献として引用することに反対して

表 1 愛知大学教員が経験したコピペの例 (2008/7)

1	コピペに使われた URL あり.
2	1 冊の本の要約と感想のレポートを必修クラスで書かせました. 事前にネットを含めて盗用しないことを注意していたにもかかわらず、その本の読者の声からの盗用がありました. 私たち担当者もチェックしておりますので判明しました.
3	「盗用」について考える (判断) がわずらわしいので、盗用しにくい具体例を中心としたレポート、あるいは筆記試験にかえた.
4	新書の紹介と感想文のゼミでの発表時
5	卒論の中に解説書からの文末を替えただけの引き写しがあった (10 年前).
6	レポートの中にインターネットのホームページ (個人) からのコピペがあった (2 年前). 以後その科目は定期試験によって評価している. レポートでの評価は受講生との間に信頼関係がなければ不可能.”
7	卒論です. ゼミ生の中に留学生がおり、すでに卒業しましたが、彼女が持って来た卒論を読んだときに、あまりに洗練された日本語で私でもかけない文体だったのでビックリしたことが始まりです. ただその感覚を確認するために、他のゼミ生 (彼女は出席が悪かった) にも全員読んでもらいコメントをしてもらい、自分の日本語感覚がずれていないのをたしかめて、PC でしらべてもらったところ、90% 以上の盗用があることがわかった. ただ彼女に問いつめても決してみとめず、対応に難儀したことをおぼえている.
8	ゼミレポート、講義レポートは盗用ができない課題を出しますから、友人のレポートを書き写して、少し修正して出すというくらいの盗用しか今のところありません.
9	Wikipedia の内容をそのまま (英文) レポートに.

いる [17]. 筆者は、これらの理由に加え、そもそも、ウィキペディアに限らず匿名の著作物を引用することには批判的である [18, 19]. この問題はさらに議論が必要であろう.

5 おわりに

本実習授業の実施にあたっていろいろ助言をいただき、また本稿についても助言を頂いた、ウィキペディア管理者の日下九八氏に感謝いたします. さらにアンケート調査にご協力いただいた、本学教員の方々、本学山本昭准教授および学生の方々に感謝いたします.

参考文献

[1] 渡辺智暁. われわれはウィキペディアとどうつきあうべきか: メディア・リテラシーの視点から. 情報の科学と技術. 2011, 61(2), 64-69.

[2] 吉沢英明. 「Wikipedia 完全活用ガイド」. マックス, 2006. 12. 31, 95 pp.

[3] 日下九八. ウィキペディア: その信頼性と社会的役割. 情報管理. 2012, 55(1), 481-488.

[4] 日下九八. ウィキペディアの基本的な編集方法と考え方 間違いを正しく編集する. 情報管理. 2012, 55(7), 481-488.

[5] 山本 まさき, 古田 雄介. 「ウィキペディアで何が起きているのか—変わり始めるソーシャルメディア信仰」. 九天社. 2008, 228 p.

[6] ピエール・アスリーヌ, 他. 「ウィキペディア革命 そこでは何が起きているのか」. 岩波書店. 2008.

[7] 中村 英. 「ウィキペディアは「Web 2.0」の旗手たり得るか (1): 危うい「権威の一人歩き」」. 朝日総研リポート, 2007. 3, (202), 17-31.

[8] 中村 英. 「ウィキペディアは「Web 2.0」の旗手たり得るか (2): 信頼性を保つために」. 朝日総研リポート, 2007. 4, (203), 88-101.

[9] 中村 英. 「ウィキペディアは「Web 2.0」の旗手たり得るか (3): 創設者ウェールズが語る軌跡と将来」. 朝日総研リポート, 2007. 5, (204), 92-103.

[10] 中村 英. 「ウィキペディアは「Web 2.0」の旗手たり得るか (4): バージニア工科大学銃乱射事件が教えるもの」. 朝日総研リポート, 2007. 6, (205), 46-60.

[11] 長塚 隆, 神野 こずえ. 学生における Wikipedia 日本語版の利用動向. 情報知識学会誌. 2011, 21(2), 149-156.

[12] 山川優樹 柴田俊文, 中井健太郎. 専門知識の発信による学会の社会貢献: 土木学会応用力学委員会のウィキペディアプロジェクト. 情報管理. 2013, 55(11), 819-825.

[13] Wikipedia:削除の方針.
<http://ja.wikipedia.org/wiki/Wikipedia:%E5%89%8A%E9%99%A4%E3%81%AE%E6%96%B9%E9%87%9D> (閲覧 2013/4/19).

[14] A History Department Bans Citing Wikipedia as a Research Source. The New York Times. 2007/2/21.

[15] 風知草: 「たった3冊で1億円」事件. 毎日新聞 2008/3/10. 東京朝刊.

[16] [著作権問題]: ネット発コピー文化, 政界も侵食中. 2007/03/30.
<http://gendaiforum.typepad.jp/news/2007/03/30/> (閲覧 2013/4/11).

[17] 大学レポート・論文の書き方. レポート

と Wikipedia (ウィキペディア) .

<http://www.report.gusoku.net/kihon/wikipedia.html> (閲覧 2013/4/11).

[18] 時実象一. 「私の視点: ウィキペディア - 安易な引用はやめよう」. 朝日新聞 (東京

本社版). 2007./7/24, 朝刊.

[19] 時実象一. 「ウィキペディアがめざす知識革命, その光と陰」. 月刊公明. 2008 (5), 56-62.